

1：推進委員会の開催

- 令和5年12月に策定した「滝川市立病院経営強化プラン」において、年度ごとに点検・評価を行い、その結果を公表することとなっている。
- 令和5年度決算が確定したため、点検・評価のための委員会を開催した。

2：推進委員

- 滝川市立病院の運営について、第三者による点検・評価を行うため、病院の運営に深く関与する団体から推薦を受けた方を委員として選任した。また、委員の互選により委員長及び副委員長を選任した。

滝川市医師会	小西 勝人(委員長)	滝川市市立病院	
滝川市社会福祉協議会	高谷富士雄(副委員長)	松橋院長	柳事務部長
滝川市町内会連合会連絡協議会	五十嵐 誠	齊藤看護部長	阿部診療技術部長
国際ソロプチミスト滝川	朝日 幸世	堀事務部次長	加藤薬剤課長
北海道税理士会滝川支部	八幡 吉宣(※当日欠席)	金子事務課長	青山医事課長
滝川市役所	和田 英昭	藤原医事課医事係長	
		里村事務課経営管理係長	
		畑原事務課経営管理係主査	

3：推進委員会の開催（令和6年12月11日（水）18時30分 市立病院2階講堂）

- 滝川市立病院経営強化プランの報告
 - ・経営強化プラン策定の趣旨説明
 - ・経営強化プランの評価ポイントの説明
- 滝川市立病院経営強化プランの進捗状況の報告
 - ・令和5年度決算及び令和6年度決算見込における経営強化プランの進捗状況
 - ・計画に対する達成度
 - ・個別の取り組み状況
 - ・令和6年9月までの経営状況（収支等）
- その他（滝川市立病院への意見等）
 - 主な発言・質疑応答
 - 委員：職員給与費率が62.9%は少し高いのでは。
 - 病院：年度によって差異があるものの、類似の自治体病院での比較では、ほぼ同等。
 - 委員：入院稼働率も悪い。80%程度の稼働は最低限必要なのでは。
 - 病院：コロナ後、急性期の自治体病院において80%を超えている病院はない。今年度の稼働率である60%弱では経営的には厳しいが、全道的に見るとまだまだ厳しい状況である。それだけ、コロナ前の患者さんが戻っていない。
 - 委員：市立病院でコロナ、インフルワクチンを接種できないのは何故か。
 - 病院：当院の内科医師が不足している状況でもあり、優先的に市内開業医に依頼しているところである。
 - 委員：計画に対し、入院患者数はかなり乖離している。医師34名で210床の稼働が可能と考えた理由を教えてほしい。
 - 病院：医師数が30名と、計画より少ない状況に加え、コロナ前の患者数が戻っていない。患者数の減少については、全国全道的な状況であり、非常に経営を圧迫している。
- 2025年に向けた地域医療構想の更なる推進
 - ・北海道が中空知地域を推進区域及びモデル推進区域に設定した。
 - ・今年度中に区域対応方針を作り、次年度その内容について進めていくことになっている

4：今後の進め方

- 毎年決算が確定した時期に推進委員会を開催し、進捗状況を報告する。

